

# のアルバム

## 官民の協力で災害に備えます

▼7月13日 市役所

市は、ゴウダ(株)と「災害時における緊急一時避難施設としての使用並びに物資の供給に関する協定」を締結しました。

これは、全国的に事業展開する事業者との間で協定を締結することにより、自らのまちで対応が困難な大規模災害が発生した際に、住民の緊急避難場所を確保し、避難所の運営等で必要となる物資を効率的に調達することを目的としたものです。

災害時に迅速に対応するため、市ではこうした取り組みを今後も進めていきます。



▼6月20日 市役所



## 海外の地で命と向き合います

JICA（独立行政法人国際協力機構）青年海外協力隊なかむらまやの中村茉耶さんが市役所を訪れました。

助産師として7月から2年間セネガルで活動される中村さんは、小さいころから国際協力に興味があり、4年間の助産師としての経験を活かし、開発途上国で人々のサポートをしたいという思いから参加を希望されました。

抱負を尋ねられると、「現地では妊婦、新生児にとどまらず、幅広く地域の人々が健康的な生活を送れるよう貢献したい。」と語っておられました。

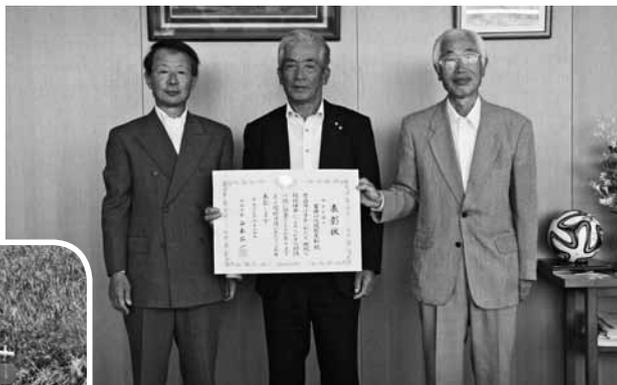
人々の暮らしに寄り添い、支えとなられることを期待しています。

## 環境大臣表彰を受賞

▼6月19日 市役所

NPO法人家棟川流域観光船が平成29年度地域環境保全功劳者表彰（環境大臣表彰）を受賞され、その報告のため市長を表敬訪問されました。

これは、同法人が継続した河川清掃活動や水環境保全意識の醸成をめざしたエコ遊覧の運航、生態回廊の再生を目的とした生態調査、ビワマスを戻す取り組み等を実施し、河川環境保全に多大な貢献をしたことが評価されたものです。



左から市長、松沢理事長 政本事務局長

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

## けいしょうはにわ 形象埴輪

現在、博物館ではテーマ展「埴輪の世界」を開催中です。埴輪には色々な種類があり、大きくは円筒埴輪と形象埴輪に分けられることを先月号でお話しました。

今回は、このうちの、人物や動物、武具などをかたどった形象埴輪についてご紹介します。

多くの種類がある形象埴輪ですが、基本的にはあるものの形を模倣して作られたものです。家形埴輪、器財埴輪、動物埴輪、人物埴輪などがあり、当時の風俗や文化などを知る手がかりとしてもたいへん貴重な資料といえます。

家形埴輪は住居や倉庫をかたどったものです。形象埴輪のなかでも早い段階で出現してくるもので、古墳時代をとおして広く一般的にみられます。

次に紹介する器財埴輪ですが、「器財」という言葉から、どのような埴輪を連想されるでしょうか？器財埴輪とは、盾や甲冑などの武器・武具、地位の高い人にさしかける傘を表現した蓋などの儀式的道具をかたどったものを言います。

対照的に、鶏や水鳥、馬や犬といったものを表現した動物埴輪や、男女の違いや職種などを類推できる人物埴輪は学校の教科書や切手のデザインをとおしてご存知の人も多いのではないのでしょうか。

形象埴輪は野洲市内の古墳からも出土していて、写真の資料は国史跡大塚山古墳群8基のうちの1基である、大塚山古墳から出土した鶏形埴輪です。復元長約80cmにもなるもので、鶏冠や目、尾羽などを巧みに表現しています。

このように、表現豊かな動物の埴輪を作れるということは、古墳時代における人と動物との距離感が、現在の私たちよりも身近だったことを表しているのかもしれない。

(博物館学芸員 角 建一)



鶏形埴輪(大塚山古墳:野洲市教育委員会蔵)

■テーマ展「埴輪の世界」10月1日(日)まで

休館日:月曜日(祝日は開館)

9月5日(火)~7日(木)・19日(火)

※市民は入館無料



## やすまる広場 2017 開催!

第9回「やすまるひろば場 2017」が市民活動支援センター、健康福祉センター周辺で開催され市内外から約7,000人の来場がありました。

市内の団体や事業所などが取り組んでいる活動発表や展示、地元の物産販売、音楽や自然とのふれあい体験など楽しい1日を過ごしました。

また、市政情報発信コーナー「井戸端トーク」では、約80人が現在、市が取り組んでいる事業や課題のポスターを見ながら気軽に市長と意見交換し、これからの「野洲市」をいっしょに考えました。

### ▼6月4日 市民活動支援センター他



おいしーもん市(模擬店)を楽しむ皆さん



市の取り組みや課題のポスターを見ながら  
市長と気軽にトークする皆さん